

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 姫路東部新駅周辺地区

平成31年3月

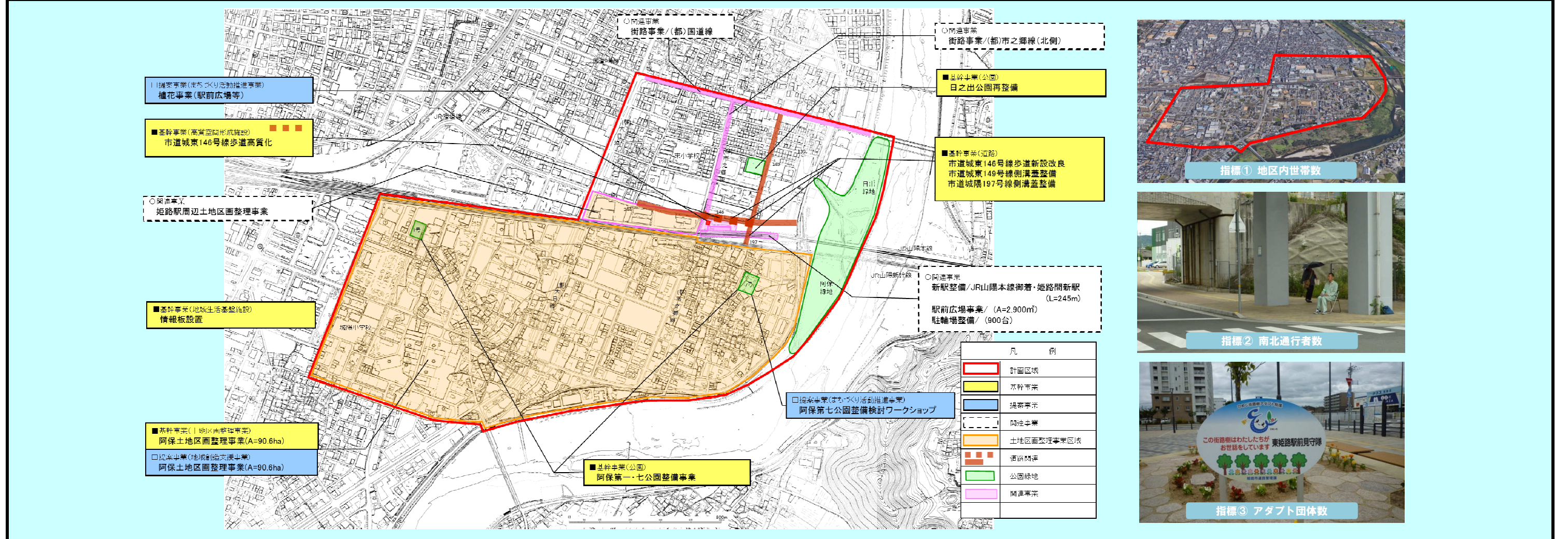
兵庫県姫路市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名	姫路市		地区名	姫路東部新駅周辺地区			面積	140 ha	
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	3,864	国費率	0.387			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道幹第46号歩道新設改良、市道城東244号線歩道改良、市道城東146号線歩道新設改良、市道城東149号線側溝蓋整備)、公園(日之出公園再整備、阿保第一公園、阿保第四公園、阿保第七公園、阿保第八公園整備)、地域生活基盤施設(情報板設置)、高質空間形成施設、((都)市之郷線歩道等高質化等)、土地区画整理事業(阿保土地区画整理事業)									
		提案事業	地域創造支援事業 土地区画整理事業(阿保土地区画整理事業)、まちづくり活動推進事業 植花事業等(駅前広場等)、まちづくり活動推進事業 公園整備検討ワークショップ(日之出公園、阿保第七公園)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	市道幹46号歩道新設改良、市道城東244号線歩道改良、(都)市之郷線歩道等高質化等、阿保第四公園、第八公園	削除/追加の理由		移転交渉が難航して、計画期間内での整備が困難になった。別事業で施行することとなった。						
		提案事業	日之出公園	削除/追加の理由		住民の間で整備内容の要望が固まっており、ワークショップの必要がなくなった。						
	新たに追加した事業	基幹事業	市道城陽197号線側溝蓋整備、市道城東146号線歩道高質化	削除/追加の理由		自歩道脇の水路に蓋をし幅員を広げより安全な通行環境を確保し、既存の自歩道部分は、カラー舗装などを整備を行う。						
		提案事業		削除/追加の理由								
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度	変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	地区内世帯数	世帯	1,844	H25	2,000	H30		2,261	○	ありなし	土地区画整理事業と新駅設置による住環境の改善より世帯数が増えた。
	指標2	南北通行者数	人/peak3h	162	H25	300	H30		382	○	ありなし	新駅周辺の道路整備によって南北通行が容易になり南北通行者が増えた。
	指標3	アダプト団体数	団体	0	H25	2	H30		3	○	ありなし	ワークショップや植花事業を地域住民と共同で取り組んだことで団体数が増えた。
	指標4										ありなし	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1											
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	実施無し		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	・公園整備にあたりワークショップを行い住民の意見を取り入れた整備を行う		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●				
	持続的なまちづくり体制の構築	実施無し		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

## 様式2-2 地区の概要

姫路東部新駅周辺地区								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
愛着と誇りあるまちの創生 新駅を中心とした ①潤いある街なか生活空間の形成 ②安全便利な交通結節点の形成	地区内世帯数	単位:世帯	1,844	H25	2000	H30	2,261	H30
	南北通行者数	単位:人/Peak3h	162	H25	300	H30	382	H30
	アダプト団体数	単位:団体	0	H25	2	H30	3	H30
		単位:		H		H		H
		単位:		H		H		H



まちの課題の変化	事業前の課題については、関連事業を含む都市再生整備計画事業により定量化した指標①・②・③で目標が達成でき都市基盤の整備と住民組織の増加等の改善がみられる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹事業と関連事業による生活基盤の強化、合わせて誰もが快適に利用しやすいよう東部新駅周辺の街なか生活空間の形成及び交通結節点の形成を図る。</li> <li>・南北市街地の一体化の推進に合わせて、歩道整備によるインターロッキング舗装やデザイン性の高い照明灯設置による景観整備を図り、駅前にふさわしい街なか生活空間を実現した。</li> <li>・また、歩道改良による道路有効幅員の拡大を行うなど、円滑な新駅へのアクセス道路整備も図り、安全便利な交通結節点を実現した。</li> <li>・併せて、情報版の設置により誘導案内が円滑化し、新駅周辺の利便性の向上にも拍車をかけたほか、公園整備については住民主体のワークショップ形式を採用し、地域住民が集う身近な交流拠点整備に寄与した。植花事業を通じて草花の管理を行うアダプト団体も創設された。</li> <li>・今後は、これらの効果の持続を目指し、更に災害に強い都市空間の創出を図るため、阿保土地区画整理事業の進捗を加速させる。また、更なる利便性の高い交通結節点の形成を目指し、駅前ロータリーに公共交通の乗り入れを検討し、更には、住民主体のまちづくりへの気運醸成を通じて、快適な居住環境の推進を図るため、周辺道路・公園の適正な維持管理を行う地元組織の創設を目指す。</li> </ul>